

食べ残しや期限切れはもったいない!

食品ロスを減らしましょう

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品を減らすことは、家計にやさしく、地球環境にも貢献できる取り組みです。
あなたも今日から食品ロス削減にチャレンジしてみませんか。

食品ロス464万トンのうち
約半分は**家庭**から出ています

国民1人当たりの食品ロス量は、毎日おにぎり約1個分(約102g)

食べ残し

買いすぎ

過剰除去*

賞味期限
切れ

※野菜の皮の厚むきなど食べられる部分を捨てること

CHECK! 家庭でできる取り組み

- ☐ 買い物前には冷蔵庫をチェック
- ☐ 食品購入は必要な時に必要な量だけ
- ☐ 購入してすぐに食べるときは「てまえどり※」
- ☐ 余った料理を別の料理にアレンジ
- ☐ 余った食材の保存方法を工夫(例:小分けにして冷凍する)
- ☐ 家庭で余っている食品をこども食堂や福祉施設に寄附する
フードドライブ活動に協力

※商品棚の手前にある商品など、販売期限が近付いた商品を選ぶこと

食べ残し持ち帰りボックスの
配付を開始

県オリジナルの持ち帰りボックス「持って帰っていいと(eat)ボックス」を県の取り組みに賛同する飲食店から来店客へ配付し、食品ロス削減の効果を検証します。



実施店舗は
こちら

実施期間 10月1日(水)~12月31日(水)

実施店舗 県内の飲食店 131店舗

※店舗によりボックス配付終了場合があります



持ち帰りの際の注意点

必ずお店の指示に従い、
次の点に気を付けましょう!

- ① 自己責任で持ち帰る
- ② 早めに食べる
- ③ 保管温度に気を付ける
- ④ 清潔な器具で自分で容器に詰める

問 循環型社会推進課

☎092-643-3372 FAX092-643-3377

大人も子どもも自転車とヘルメットはセット!

自転車ヘルメットを着用し、命を守りましょう

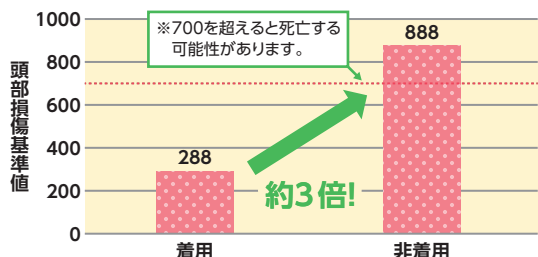
自転車は私たちの生活に身近な乗り物ですが、事故のリスクも伴います。自転車ヘルメットを正しく着用して大切な命を守りましょう。

ヘルメット非着用の危険性

自転車事故で亡くなられた方の

約半数が頭部に致命傷を負っています。

▼自転車の単独・転倒事故における頭部への衝撃(JAFユーザーテストより)



ヘルメットを着用していない場合、頭部への衝撃は **約3倍!**

注:本テストは、子どもダミーを乗せた自転車を停止状態から転倒させ、計測。

ヘルメットの正しい着用方法

ヘルメットの先端が
眉毛の少し上まで、
深く水平にかぶる

ヘルメットは
頭のサイズに
合ったものを!

あごひもは、
指2本程度が入る
くらいに締める

SGマークやJCFマークなどが
表示された安全基準を満たし
たヘルメットを着用しましょう。



示すのは手本!守るのは命!子どもの命を守るため大人が率先してヘルメットをかぶりましょう!

問 生活安全課

☎092-643-3167 FAX092-643-3169